



品川 亜衣

自分自身がワカモノ記者という立場になったことで、以前にも増して前橋に興味を持ち、郷土愛が強くなりました。ワカモノ記者としての活動は終わりますが、今後も一市民として前橋の魅力を見つけていきたいと思っています。



小内 香生流

2年の活動を終えてまず思うことはあっという間だったなということです。毎回さまざまな体験ができました。そしてたくさんの前橋の魅力に気づき、貴重な経験となりました。このような経験ができたのもたくさんの人の協力があったから。感謝の気持ちでいっぱいです。



松永 農人

取材をとおして前橋の魅力や地域ならではの取り組みに触れることができました。自分は県外出身でしたが、取材をする前よりもさらに前橋のことが知れて、この街を好きになれたと思います。ワカモノ記者の活動は終わってしまいますが、個人でも生活の中で前橋の魅力を見つけていきたいです。



千葉 友理香

前橋で行われている私の知らない活動について、間近で経験談を聞くことができこれまでにない貴重な体験をしました。私たちワカモノならではの視点と、年齢の違う方々からの視点、さまざまな視点で前橋の素晴らしさを学びました。たくさんの人が地域に興味をもって知ってほしいと思います。

第3期メンバー募集!

ワカモノ記者 になりませんか

広報まえばしで、市内のさまざまなモノ・コトを若者目線で取材し、情報発信するワカモノ記者を募集。取材や月1回程度開催する編集会議に参加し、広報紙編集に携わったり、SNSでの情報発信をしたりします。

事前に参加者向けの研修会も開催。文書の書き方や写真撮影などの基本を学びます。また、取材には職員が同行。編集などの経験がなくても安心です。活動予定や内容など、詳しくは本市ホームページをご覧ください。



任期＝令和4年3月31日(木)まで

対象＝市内在住・在勤・在学の18歳～29歳で、初回研修会に参加できる人、10人程度(選考)

その他＝無報酬のボランティア

申し込み＝3月15日(日)までに郵送で。住所・氏名・年齢(学生の場合は学校名と学年)・電話番号・メールアドレスと応募の動機(400字以内)を記入し、市役所市政発信課(☎027-898-5847)へ。または

✉ shiseihasshin@city.maebashi.gunma.jpで

2年間の活動を振り返って

平成30年度からスタートした、市民編集委員「ワカモノ記者」第2期メンバーの活動。日本語学校や赤城山、地域おこし協力隊、フードバンク…。市内のさまざまなモノ・コトについて取材を行い、私たちにその魅力を伝えてくれた彼らが、活動の任期を迎えました。

☎ 市政発信課 ☎027-898-5847



熊木 奏来

初めの頃はメモを取って取材をし、記事を書くことが難しかったけれど、取材を重ねると記事を書くのが楽しくなってきました。記事の作成を通じて読み手を意識した記事を書くように努めるようになり、普段文章を書く際にも生かすことができました。また、活動を通じて前橋市を深く知ることができ新たな発見をすることができました。



安済 茜

取材へ行き、編集をするという貴重な体験ができてよかったです。取材をとおして、多くの企業や団体が前橋への強い想いを持っていることを知り、その想いが今後の前橋の活性化につながるのだと思いました。また、友人や知人からの「広報みたよ!」という言葉が活動の原動力となっていました。活動終了後も、前橋の魅力を多くの人に伝えていきたいです。



吉田 梨華

期待と緊張が入り混じりワクワクした気持ちで臨む取材では、毎度、前橋を大切に想う人とのすてきな出会いがあり、今まで気付くことのなかったまちの新しい側面に触れることができました。また、原稿作成を通じて自分の言葉で前橋の魅力をつづり伝えることができるこの活動に大きな責任と喜びを噛みしめ、取り組みました。そして、前橋のまちづくりに関わりたいという思いがより一層強くなりました。



高橋 梨華

取材をとおして、前橋の新たな一面を知ることができました。また、普段出会う機会がない人々と交流することができました。前橋には多種多様な活動をしている人々がいて、みんな違う方面から前橋に活気を与えていると感じました。これからも、前橋の魅力を自ら行動して見つけていきたいと思っています。